

Press Release

2018年 6 月 21日

日本公認会計士協会

第46回日本公認会計士協会学術賞受賞作品について

賞の概要

日本公認会計士協会では、広く、会計、監査、税務、経営及び公会計等の学術の発展に寄与し、公認会計士の業務の向上に資すると認めた優秀な著書又は論文等に対して学術賞を、マネジメント・コンサルティング・サービス（MC S）業務の充実及び発展に寄与すると認めた優秀な著書又は論文等に対しては学術賞－MC S 賞を、また、公認会計士の業務の向上に資すると認めた会員及び準会員の著書又は論文等に対しては学術賞－会員特別賞を授与し、これを顕彰しています。

選定に当たっては、毎年、学術賞審査委員会を組織し、優れた作品を広く選考対象とするため、応募作品のみならず、審査委員会としても、独自に著書又は論文の収集を行い、複数回にわたる厳選により受賞作品を決定しています。

本賞は、今回で46回目を数えることになりました。今回の対象作品は、2016年10月から2017年9月までに出版された書籍又は発表された論文であり、受賞作品は以下のとおりとなりました。

第46回受賞作品

◇ 学術賞（著書1点）

「持分の会計－負債・持分の区分および資本取引・損益取引の区分－」

株式会社中央経済社／2016年10月10日刊／A5判・388頁

著者：池田 幸典 愛知大学経営学部教授

【選定理由】

負債と持分の区分、資本取引・損益取引の区分は、会計理論の中で長らく論じられてきたテーマであるが、昨今、負債と資本の区別が不明瞭な金融商品が数多く開

発されており、これに対する会計処理の検討も必要となっているなど、今日の会計実務の中でも非常に重要かつ難解な論点となっている。

本書では、これらの論点に対し、先行研究や基準設定の歴史と現状を十分に踏まえたうえで、多面的な考察を行い、全体的な解決策を提示している。

複雑になりがちなこれらの論点について、基本的な事項を整理することから始め、理論を単純化しつつも、それぞれの論点について整合的な方向性を提示しており、これらの論点を理解するのに有益である。

また、随所で仕訳を用いた解説をしている点も、会計専門家にとっては、親しみやすく、理論の理解にとって有用である。

以上の点で学術賞審査委員会では優れた書として選定した。

◇ 学術賞—MC S 賞（著書 1 点）

「プラットフォーム企業のグローバル戦略—オープン標準の戦略的活用とビジネス・エコシステム—」

株式会社有斐閣／2017年3月30日刊／A5判・414頁

著者：立本 博文 筑波大学ビジネスサイエンス系教授

【選定理由】

グローバル化した社会において、圧倒的な競争優位に立つためにプラットフォーム戦略の重要性、戦略方法など示唆に富む内容が多い優れた学術書である。

プラットフォーム企業の事例研究として携帯電話、半導体製造装置、パソコン、車載エレクトロニクスと取り上げその成功要因を分析している。プラットフォーム企業が国際的に成功すると、国際的な産業構造変化を引き起こすことを明らかにしている。

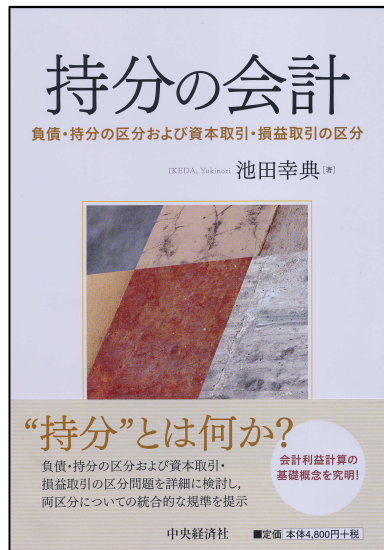
プラットフォーム戦略は、今後ますます重要性が増す車の自動運転、IoTエコシステムやAIを用いたデータ・ドリブンな産業、企業にも適応できるものであり、その戦略が期待される。

また、著者が述べているようにどのような感性を持った経営者が、また、どのような意思決定プロセスが世界を制覇するものなのか、そして日本ではなぜ少ないのか更なる興味を抱かせてくれる。

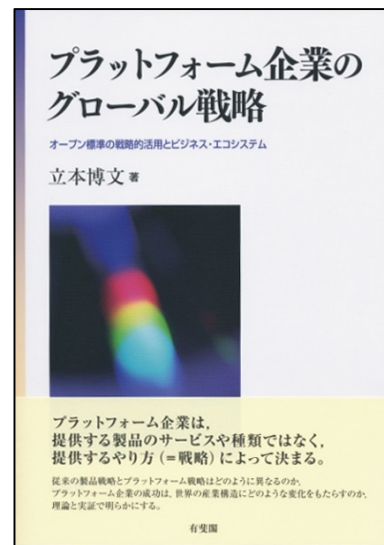
日本企業がグローバルでより一層飛躍するために経営者、研究者及びコンサルタント業務を行う公認会計士にとっては貴重な著書である。

以上のことから、協会学術賞—MC S 賞に値するものとして選定した。

(書籍画像)



第46回学術賞



第46回学術賞－M C S 賞

以 上